

平成 29 年度第 2 回箕面市子ども・子育て会議 議事概要

◆日 時：平成 30 年（2018 年）3 月 9 日（金）18:00～19:40

◆場 所：グリーンホール 2 階 大会議室 2

◆出席者：

【委 員】澤田会長、小花委員、高市委員、廣瀬委員、山内委員、大須賀委員、
尾崎委員、久代委員

（欠席）田中委員、宗形委員、北島委員、樋口委員

【事務局】

（子ども未来創造局）千葉局長、岡副部長、石橋学校教育監、木村担当部長、
小西副部長

（教育政策室）村中室長、久野担当室長、（学校教育室）金城室長、

（人権施策課）柴田課長、（青少年育成室・学校生活支援課）荻野室長、

（教育センター）尾崎所長、（男女協働・家庭支援室）江口室長

（幼児教育保育室）今中室長、坪田担当室長、（子育て支援課）戸島課長、

（子ども成長見守り室）松澤室長、（子どもすこやか室）山田室長

◆傍聴者：2 名

◆議事内容：

1. 開会

2. 案件

（1）児童福祉部会・青少年育成部会からの報告について

（事務局）

- （資料 1-1、1-2 に基づいて、各部会の開催状況等について報告）

（質疑なし）

（2）第三次箕面市子どもプランの進捗状況について

（事務局）

- （資料 2～3、参考資料 1～5 に基づいて、プランの進捗状況について説明）

（委員）

- 学力保障・学習支援事業の成果を具体的に教えてもらいたい。

(事務局)

- NPO 法人に委託して実施している事業。昨年度の実績としては、122 人の児童生徒が本事業を利用し、そのうち、一部重複があるが、登校日数が増加したのが 34 人、学習意欲が向上したのが 68 人、対人スキルが向上したのが 65 人という結果になっている。

(委員)

- 箕面子どもステップアップ調査の結果で、箕面市の子どもは、「規範意識」が平均より低いと聞いたことがある。私自身も地域で朝の挨拶運動などを行っているが、なかなか挨拶が返ってこないことがある。挨拶は基本的な生活習慣なので、ぜひ子どもたちに身につけてほしい。

(事務局)

- 調査では「学校のルールを守っていますか」という質問で「規範意識」を調査しているが、結果が良くない学校・学年が多いというのが、これまでの分析でわかってきた。個別に学校の状況を見ていくなかで、その学校・学級がいわゆる「荒れた」状態になっているということであれば、教育委員会事務局としても指導助言や支援を行っているが、一方で、そのような状況が全く見られないにも関わらず、この「規範意識」の結果が低い学校もある。これは、より高い規範意識を持った児童生徒が、「自分自身は学校のルールを守っているが、周りはまだまだだ」という意識のもと、否定的な回答をしているためであると推測される。このことから、調査結果だけでなく、実際の学校の状況をしっかり点検していくことが重要であると考えている。
- 挨拶に関しても、全国学力状況調査において、あまりできていないという結果が出ている。これまでも、地域にご協力いただき、また、生徒会などを中心に挨拶運動に取り組んできたところであるが、なかなか良い結果につながらないのが現状である。個別に学校を見ていくと、非常に積極的に挨拶ができてい学校もあるので、やはり習慣づけが大切だと思っている。防犯上の観点から「知らない人とは話さないように」とも言われることがあるので、それが影響しているのかもしれないが、少なくとも学校の中では挨拶をきっちりしていこうと指導しているところ。

(委員)

- 「箕面・世界子どもの本アカデミー賞」に毎年参加している。毎回感動的で、素晴らしいイベントだと思っているのだが、あまり周知されていないように思う。もったいないので、もっと情報発信してほしい。

(事務局)

- 子どもたち自身が司会やプレゼンターをしたり、トロフィーを制作するなど、内

容も充実して良い取り組みになっていると思っている。図書館司書も、イベントの開催、オーサ・ビジットの実施に中心的に関わっている。大勢の人が一緒になって作り上げているイベントなので、ご指摘のとおり、もっと情報発信して盛り上げていく必要があるのではと思う。

(委員)

- 公共図書館をよく利用している。先日、本のリクエストをしたら一週間も経たないうちに用意していただき、そのスピードと対応の丁寧さに驚いた。その状況に比較すると、保育所や幼稚園に置かれている本の古さが目立つように思う。働いている保護者が多い中で、なかなか公共図書館に連れていけない状況もあるので、保育所や幼稚園の図書の充実にも目を向けてほしい。

(事務局)

- 保育所・幼稚園によって図書の状況はまちまちで、小さな図書コーナーもないようなところもある。限られた予算の中でやっていくしかないが、貴重なご意見をいただいたと思うので、少しずつでも整えていけたらと思う。

(会長)

- 「箕面子育て応援ブック」は、どのように配布されるのか。
- また、子育て情報の発信にあたって、母子健康手帳等の多言語対応しているのか。

(事務局)

- 「箕面子育て応援ブック」の「カンガルー期」は妊娠届出時に、「すやすや期」は出生届出時に、「にこにこ期」は「赤ちゃん訪問」時に、「ぐんぐん期」は4か月健診時に、「いやいや期」は1歳6か月健診時に、「なんで期」は3歳6か月健診時に、「入学準備号」は就学時健診時に配布する。届出や健診時にお渡しすることで、対象となるすべてのご家庭に情報をお届けできると考えている。
- 母子健康手帳については英語版、中国語版等をご用意している。また、乳幼児健康診査のご案内や予防接種手帳などを英語版で作成している。

(会長)

- 資料3の12ページ「病児保育事業」の提供量の実績が、当初見込みの必要量よりも大きく下回っている。必要量の実績に対して不足はないという理解はしているが、「病児保育」の実施状況について教えてほしい。

(事務局)

- 本市では病気回復期を対象とした「病後児保育」は実施しているが、病中を対象とし

た「病児保育」についてはまだ実施できていないため、提供量の実績には計上されていないが、平成30年度の夏頃の開始を目指して準備を進めているところである。

(会長)

- 待機児童の解消もちろん重要であるが、現在、保育所等に預けながら働いている家庭の支援の充実もぜひお願いしたい。
- 次に、昨年12月に箕面市の子どもが虐待により死亡したという痛ましい事件があり、それを受けて、市ではその検証を行ったとの説明であったが、どのような検証を行い、そして今後どのような対策を講じるのか、もう少し詳しく説明してもらいたい。

(事務局)

- (追加資料「児童虐待死亡事案に関する調査・検証報告書」に基づき説明)

(会長)

- 丁寧に検証されていると思う。
- 保育所以外に、例えば学校においては、虐待が疑われるケースをどのように把握し、対処するのか。特に、様々な機関やスクールソーシャルワーカーなどの専門職との連携について説明してほしい。

(事務局)

- 現在の男女協働・家庭支援室は4人体制で校区ごとに担当を決めている。学校が虐待のサインを見つけたら、男女協働・家庭支援室に通報してもらい、すぐに安否確認を行うこととしている。その後、状況に応じて、大阪府池田子ども家庭センターによる一時保護等の措置がなされるか、地域での見守りを継続するか、ということになる。後者の場合、学校においては、スクールソーシャルワーカーが果たす役割も大きく、外部の支援機関や社会資源とのつながりを担ってくれている。このような見守りの過程において、学校等から定期的に男女協働・家庭支援室に報告があるほか、状況の変化があれば随時報告をしてもらうなどして、リスクの管理をしている。
- 今後は、この一連のケースワークを、新設する「児童相談支援センター」に配置する「子ども家庭総合支援員」が担っていくこととなる。今以上に人員体制が充実し、より高い専門性をもった対応が可能になると考えている。

○

(3) (仮称) 第四次箕面市子どもプランの策定について

(事務局)

- (資料4に基づいて、今後の流れ等を説明)

(質疑なし)

(4) その他

- 今後のスケジュール等を事務局より説明

3. 閉会

以上